

下越動物保護管理センターの主な活動

① 犬・猫の保護、収容

飼い主がいらない犬・猫を保護し、センター内に収容。負傷、衰弱している動物は治療を行います。

② 公示

保護犬・保護猫の特徴をホームページなどで公開。飼い主の元に返せるよう情報を発信します。

③ 譲渡

飼い主が見つからなかった犬・猫は新しい飼い主の元へ。譲渡を待つ犬・猫の情報は随時ホームページで公開中。

動物ふれあい訪問活動



▲ボランティア団体(がんばるワン新発田)と連携。小学校や介護施設で犬・猫とのふれあい体験を実施。

家庭犬のしつけ方教室



▲ドッグトレーナーを講師に迎え、正しいしつけ方を学びます。

猫のふれあい室



動物愛護フェスティバル

動物愛護週間がある9月に実施。長寿動物・功労動物の表彰、動物愛護活動に携わる専門家の講演会、動物とのふれあい体験などを企画。

▲手づくりのふれあい室では個性豊かな猫たちがお出迎え。譲渡対象の猫と実際にふれあうことができます。

譲渡体験談

新発田市在住 古澤洋子さん

〈がんばるワン新発田〉の一員としても活動する古澤さん。「もともと飼っているルイが亡くなったらペットロスになるかも。2頭目を飼いたいけど子犬から育てるのはどうか」と、センターからの譲渡を選びました。こうして古澤さんの元にやってきました。元・繁殖犬と見られ、雑木林に遺棄されていた

といひます。最初は立ったまま眠り、棒状のものを怖がっていたナツも、古澤さんに見守られ次第にのびのびと過ごせるように。「先住犬ルイとも仲よして『がんばるワン』の活動にも2頭で参加しました。認知症の方も動物とのふれあいで笑顔になるんです。ルイとナツと一緒に暮らせてとても幸せです」。



▲古澤さんとナツ ▶保護当時のナツ

犬・猫との関わり方を紹介 ▶ YouTubeチャンネル「新潟県下越動物保護管理センター公式Niigata Animal Love」もチェック!

よりよい共生のあり方を探る



同センターでは、動物愛護精神の普及啓発活動として、家庭犬の「しつけ方教室」や地元ボランティア(がんばるワン新発田)とともに介護施設や小学校などを訪問する「動物ふれあい活動」、講演会や動物ふれあい体験などを行う「動物愛護フェスティバル」などの催しも企画してきました。コロナの影響により例年のような活動が難しい時期もありましたが、講演のオンライン配信をはじめ、動画サイトの公式チャンネルを活用した犬・猫への接し方の紹介や、保護猫の譲渡推進のためのPR動画の配信、保護された子猫を2時的に預かって生育するミルクボランティアの推進など、積極的な試みを行っています。「9月開催のイベントでは、獣医師など、ふだん動物に関わる4名が講師となり、「ペット・野生動物・お肉になる動物たち」を題材に特別授業として講演会を行います。さまざまな動物と人との関係について、そして大事ないのちについて、未来を担う子どもたちやご家族はもちろん、獣医師の仕事に興味のある方など、ぜひ多くの方に聞いていただければと思います」。

同センターに寄せられる相談は1件1件異なり、動物を飼っている人、飼っていない人、動物が好きで苦手な人それぞれに事情や困っていることがあ

「ペット・野生動物・お肉になる動物たち」大事な「いのち」の特別授業

- 日時 9/23(金・祝) 14:00~15:30
- 場所 新発田市生涯学習センター
※小学3年以上の児童向けの内容ですが、児童以外の参加、家族・友人同士の参加も可能です
- 定員 会場参加50組(1組4名まで)またはオンライン参加50組
- 申込み 9/12(月)までに下越動物保護管理センターHPより要事前申込み
<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kaetudoubutuhogo>



申込みはこちら▶

り、どちらの側にも丁寧な寄り添い、共生に向けた努力を訴えなければなりません。保護した動物が元気になって譲渡につながったときや、多頭飼育崩壊事案が多くなるとの連携で一定の解決に至ったとき、肩の荷が下りるような思いがする、それがやりがいだと語った佐久間さん。言葉の端々に動物への深い愛情が感じられました。

9月20日(火)〜26日(月)は動物愛護週間です。私たちを取り巻くさまざまな動物たち。互いが幸せに共生するための新しい関わり方を、ぜひ一度考えてみてください。

巻頭特集

人も動物もともに生き、ともに幸せに

下越動物保護管理センターが つなぐもの



動物愛護の普及啓発、狂犬病予防推進をはじめ、犬や猫などペットに関わるさまざまな業務を担う(下越動物保護管理センター)。やむを得ない理由で飼えなくなった犬や猫の引き取り、飼い主とはぐれた犬や交通事故で負傷したり遺棄されたりした猫の保護。ペット飼育に関する苦情相談への対応、動物取扱業(ペットショップやブリーダー等)の監視指導など、業務は多岐に渡ります。同センターには、佐久間さんを含め5名のスタッフが在籍。新発田保健所の出先機関として、新発田市・阿賀野市・胎内市・聖籠町、さらに村上保健所管内の村上・関川村・粟島浦村と新津保健所管内の阿賀町も含む広大な下越地域を管轄しています。

獣医師である佐久間さんは令和2年より同センターに勤務。さまざまな理由で保護・収容された犬・猫の治療

下越の動物を見守って 「動物保護」の役割



ペットとして多くの家庭で可愛がられている犬や猫などの動物たち。その一方で、適切な飼育がなされず、傷つき保護される犬や猫もたくさんいます。私たちは、動物たちとどのように関わっていけばいいのでしょうか。(下越動物保護管理センター)の獣医師・佐久間靖子さんにお話を伺いました。

や処置をはじめ、寄せられた苦情相談に応じて現地に出行くことも多いといひます。センター職員丸となって、保護した犬猫の返還や譲渡にも懸命に取り組む。飼い主を探すため、ときには隣にチラシを配るなど地道な活動を続けてきました。

そんな努力のいかいもあって、同センター管轄地域では令和3年の犬の返還率が86%に達し、さらにここ数年の処分率(飼育中死亡も含む)は7%以下に。「疾病や負傷、譲渡先が見つからないなどの理由でどうしても助けられない命があるのも事実です。しかし、なるべく処分しないように、助けられるようにと、殺処分ゼロに向けひとつずつ努力を重ねています」と、佐久間さんは話します。

多機関連携で備える 動物保護の最前線



「近年、動物に関する苦情や相談で、全国的に大きな問題になっているのが多頭飼育崩壊です」と語る佐久間



新発田地域振興局 健康福祉環境部
下越動物保護管理センター
佐久間 靖子さん

動物が好きで獣医師の道へ。譲渡を経て出会った愛猫は6キロのぼっちゃん系。「犬・猫を飼いたいと思っている方は、ぜひ当センターHPをチェックして譲渡を考えてみてください」。

さん。犬や猫を適切に飼育管理できない数まで増やしてしまい、衛生面、健康面などで人も動物も生活環境が大きく破綻してしまう状態で、鳴き声や糞尿等の臭いで周辺住民にも悪影響が及ぶこともあります。「センターにも毎日のように相談が寄せられますが、多頭飼育崩壊に至った飼育者はそれぞれに複雑な事情を抱えており、飼育されている動物を引き取れば解決とはいかない事例も少なくありません。福祉団体、地域自治会、ボランティア団体、動物病院など、多くの人が、多機関連携で協力し合い、事情を聞き、継続して見守りながら、ひとつずつ解決法を探っていく必要があります」。

また、動物それぞれの特性や飼育方



「家族になりました!」



法を十分把握せずに安易に飼い始める人も少なくなく、あとでこんなはずじゃなかったと取り返りを求めるケースもあるといひます。「私たちが強く訴えているのが、終生飼養と不妊去勢手術などの繁殖制限措置の実施です。例えば、猫を1匹飼うのにかかる生涯費用は約150万円です。ライフスタイルや今後の人生設計も含め、動物の一生にわたって飼い主の義務を果たせるのかまず真剣に考えること、万が一自分が飼えなくなったときに代わって飼育してくれる。後見人を見つけておくことも大切です」。特に不妊去勢手術については、人と動物の暮らしのためにぜひ実施してほしいといひます。「生殖器系の疾患の予防、ストレスを減らしたりマーキング行動を抑制するなどのメリットもありますし、何より多頭飼育崩壊を防ぐために有効です。動物をお世話する、飼うことが決まったら、必ず手術を受けるようぜひ周囲にも呼び掛けてください」と、佐久間さんは強く訴えます。



取材協力/問合せ
下越動物保護管理センター
新発田市奥山新保430 ☎0254-24-0207